



国 語 問 題

はじめに、これを読むこと。

1. この問題用紙は十二ページある。
2. 解答用紙に印刷されている受験番号が正しいかどうか、受験票と照合し、確認すること。
3. 解答用紙の所定の欄に氏名を記入すること。
4. 解答は、すべて解答用紙の所定の欄にマークするか、または所定の欄に記述すること。
5. 解答は、必ず鉛筆又はシャープペンシル(いずれもHB・黒)で記入すること。
6. 訂正は、消しゴムできれいに消し、消しくずを残さないこと。
7. 解答用紙は、絶対に汚したり折り曲げたりしないこと。また所定の欄以外のところには、絶対に記入しないこと。
8. 問題に指定された数より多くマークしないこと。
9. 解答用紙は、持ち帰らないこと。
10. この問題用紙は、必ず持ち帰ること。
11. この試験時間は、六〇分である。
12. 解答をマークする場合は、下の記入例を参照して、正しくマークすること。

(マークの記入例)

良い例	悪い例
	

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

非人間的存在を人間として概念化するのがアニミズムであれば、それを前提とするのがパースペクティヴィズムである。それは、動物などの非人間的存在が人間を非人間的存在とみなし、逆に自らを人間的な主体としてみなしていると概念化する。

アマゾン先住民の思想では、動物は自分たちのことを人間だとみなすが人間とはみなさないのだ。人間を餌食にする肉食動物や精霊にとって、人間は獲物である動物であり、人間が狩猟する動物は人間を精霊か肉食動物とみなすのである。パースペクティヴィズムの思想においては、主体性をもつ人間によって客体Ⅱ対象物としてみなされる非人間的存在も、実は自らと他者をまなざすことのできる主体なのである。しかしここで注意しなくてはならないのは、まなざしに先立って主体と客体が所与のものとして決まっているのではなく、まなざしあるいは視点が定まるとき、主体の位置が決まり、まなざしの交錯Ⅱ交換において主体が決定されるということである。従って人間もまなざされる客体となりうるのである。非人間的存在を、動物や草木虫魚などの自然界に存在する物として実体的にとらえてはならない。「超自然的な」精霊も、人間ではあるが敵である異なる民族集団も、自己による予測がつかないきまぐれな行動をおこす他者であるという意味では、非人間的存在なのである。

アニミズムとパースペクティヴィズムにおいて、人間と非人間的存在との関係は「社会的」なものである。ヴィヴェイロスⅡデヒカストロに影響を受け、北アジアのアニミズムとトーテムズムを研究したデンマークの人類学者モルテン・ペデッセンの言葉を借りるなら、そこで大切なのは、他者も主体なのだということを受け入れ、

Ⅲ の立場にいる Ⅳ を想像する力を持ち、まなざしを交錯させながら、交流を持つとすることである。ここにレヴィーストロースの「遠いまなざし」を読み取るのはたやすいだろう。

ウィレルスレヴも、ペデッセンの研究を踏まえて、ヘラジカを狩るときの狩人のまなざしを次のように述べている。ユカギールの狩人は、ヘラジカの皮でできた外套を着て、ヘラジカの角の生えた帽子をかぶり、ヘラジカの皮をつけたスキーを^アハいて、子供を連れた雌のヘラジカに近づく。雌のヘラジカは、眼の前にいるのが人間かヘラジカかという難問を解くために困惑

して頭を上げ下げしながら立ち止まったままである。狩人がヘラジカのようなしぐさをして近づくと、動物は狩人の動きに魅せられて、彼を同類だと思つて子供をおいて彼の方に寄つてくる。そのとき狩人は銃で獲物をしとめるのである。

狩人と動物のこのような対峙において生じるのは、視線の相互的な反射だとウィレルスレヴは言う。狩人の模倣行為を通してヘラジカは自分の種に特有の身体を見ることになる一方、狩人も自分がヘラジカのしぐさを真似た動きをしたのに同調したヘラジカの動きの中に自らの身体イメージを見出すのである。狩人はヘラジカが自分の方に動いて来るのをただ単に見ていたのではない。彼は外側から、他者(ヘラジカ)が自分に向けるまなざしをとりこんで、あたかも自分がヘラジカであるかのように(実際に狩人はヘラジカの姿をして、ヘラジカのしぐさをしていた)、自分を見ていたのである。

彼は主体として客体であるヘラジカをまなざすが、その人間としてのまなざしは、自らを超越してヘラジカに投影され、Vと経験される。同時に自分を同類だと思つたヘラジカのまなざしを見ることで、狩人は主体である他者のパースペクティブから、つまり外側から客体としての自己自身をまなざすのである。そのような場合、狩人のアイデンティティは自らの内側にあるというより、彼が模倣した瓜二つのものの中にある。狩人は自分自身をヘラジカの中に見出すが、そのヘラジカは狩人が本当は誰なのかという秘密を握っているともいえ、逆説めくが、狩人はヘラジカが「人」であることをにわかには否定できないのである。そうすることは、彼自身が「人」であることを否定してしまいかねないからである。

このような視線の動きは、まさに「遠いまなざし」そのものといえようが、狩人はヘラジカの行動を模倣し、そのまなざしを取り込むことで、ヘラジカに共感し感情移入するのである。

他者のまなざしの取り込みとは、他者のいる場所に自らを位置づけることのできる能力ということでもあるが、いずれにせよ、それは想像力によるのであり、私は他者のまなざしを直接体験できない。しかしだからだめだというのではなく、模倣のしぐさなどを通じて、「他者の身になって考えてみる」ことで、他者のまなざしの特質と、それによって眺めた世界がどのようなものを想像できることが他者との共感につながるのである。

ペデッセンは、この想像する力を「類似的な同一化」あるいは「部分的な同一化」と呼んでいる。他者(客体、非人間的存在)も

自己(主体、人間)と同じようなもので、そこに連続性をみるという前提が VI には不可欠ではある。しかし、この自己と他者の連続性あるいは同一化は完全なる同一化ではない。そもそも他者は自己と同じ規則・規範・価値観を共有しない異質な存在であるゆえに他者なのである。求められているのはそのような他者への敬意を払った対応であるが、自己と他者が完全に同化してしまうならば、それは自己を自己、他者を他者でなくしてしまふことであり、そもそも自己と他者を成り立たせているまなざすこと(パースペクティヴィズム)そのものを無意味なものとして消滅させてしまふことになる。そうならないための「類似的同一化」なのである。

完全な同一化はシベリアの狩猟民の間では危険なこととみなされている。狩猟者は、動物の毛皮を身にまとい、鳴き声を真似て動物をおびき寄せ獲物をしとめようとするが、狩りのために森の中の生活が長くなると、ついには動物のように「なってしまう」。そうなるともう人間社会に戻ることができないのだ。

決して完全に一致することはない人間と非人間的存在のあいだを バイカイ するのがシャーマンである。シャーマンは両者の境界をまたいで活動し、非人間的存在のまなざしを取り入れて、人間と非人間的関係を トウチ しようとする。非人間が自身(非人間)を人間として見ることが出来るまなざしを共有するシャーマンは、非人間的存在との積極的な対話者という役割を果たす。シャーマンは人間と化した非人間的存在と対峙し、非人間が語る物語を人間界に無事戻ったとき同胞の人間に向かって語り直す。シャーマンでない人間が、もし主体としてふるまう非人間(それは人間の格好をしている)を見たら、非人間の主体性に圧倒され、動物や死者に変身してしまうおそれがある。まなざしの出会いあるいはまなざしの交換は危険な仕事であり、それをできるのがシャーマンなのである。

「類似的同一化」によって、非人間も主体であることはわかっているが、同一化は部分的であり、その「人間性」はつまびらかではない。非人間⇨他者を客体ではなく主体とするためには、その人間性を知る必要がある。そしてそれについての知を同胞(同一者)に伝える、それがシャーマンの仕事なのである。

他者のまなざしをまなざし、他者に映った自らの姿を見つめ直し、かつそれを同胞に伝え、ときには反省を促すこと、それ

がレヴィストロースのいう「遠いまなざし」であるが、だとしたら、レヴィストロースは、現代のシャーマンともいえるだろう。

(出口題「レヴィストロース——まなざしの構造主義」より)

注

レヴィストロース —— 一九〇八〜二〇〇九。フランスの人類学者、哲学者。

ヴィヴエイロス・デ・カストロ モルテン・ペデッセン ウィレルスレヴ —— いずれも現代の人類学者。

ユカギール —— シベリア東部に住む先住民族。

問一 傍線ア「ハ(いて)」、傍線イ「バイカイ」、傍線ウ「トウチ」をそれぞれ漢字に改めて記せ。

問二 傍線 a「餌食」、傍線 b「外套」の漢字の読みをそれぞれひらがなで記せ。

問三 傍線 A「従って人間もまなざされる客体となりうるのである」とあるが、この「客体」の決定に必要なものは何か。最も適切なものを、次の中から一つ選び出して、その番号をマークせよ。

- ① 他者のまなざしの特徴
- ② 他者のパースペクティブ
- ③ 非人間的存在との積極的な対話
- ④ まなざしの直接の体験

問四 空欄

I

II

III

IV

出して、その番号をマークせよ。

に入る語の組み合わせとして最も適切なものを、次の中から一つ選び

- ① I 他者 II 自己 III 自己 IV 他者
② I 自己 II 動物 III 自己 IV 人間
③ I 他者 II 同胞 III 同胞 IV 同胞
④ I 自己 II 動物 III 他者 IV 精霊

問五 空欄

V

に入る文として最も適切なものを、次の中から一つ選び出して、その番号をマークせよ。

- ① 人間が客体としてのまなざしを獲得したもの
② 人間がヘラジカのまなざしをもっているもの
③ ヘラジカも人間としてのまなざしをもつもの
④ ヘラジカも超越的なまなざしを備えているもの

問六 傍線B「他者との共感」とあるが、狩人からヘラジカへの「共感」が形成される様子を説明した最も適切な一文を抜き出し、その最初と最後の五字を記せ。(句読点を含む)

問七 空欄 VI にあてはまるものとして最も適切なものを、次の中から一つ選び出して、その番号をマークせよ。

- ① 概念化
- ② アニミズム
- ③ 模倣行為
- ④ アイデンティティ

問八 傍線C「非人間の主体性に圧倒され、動物や死者に変身してしまう」とはどのようなことか。最も適切なものを、次の中から一つ選び出して、その番号をマークせよ。

- ① 非人間の強力なエネルギーを吸収して、人間とは異なるものになってしまうこと。
- ② 他者たちと対話するためには、自らも非人間に変身する必要があるということ。
- ③ 動物や死者たちの苦しみに共感し、人間としての社会性を捨て去ってしまうこと。
- ④ 人間から乖離した全く異質な他者に完全に一体化して、元に戻れなくなるということ。

問九 三箇所の波線「遠いまなざし」と対照的なものの見方とはどのようなものか。本文中から二十五字以上三十字以内で該当する箇所を抜き出して記せ。

次の文章は、江戸時代の和学者が、奈良時代の著名な歌人に擬して創作した文章である。これを読んで、後の問に答えよ。

わが殿、筑紫にましまして、大まつりごと申したまひしより、官の人はさらにも言はず、^Aをちちの国のかみたち、皆その御まうけに従ひて、なほく、あつき、真心をもて、大御たからを、^aをさめたまへば、御うつくしみの波、及ばぬかたなし、御めぐみの露、かからぬくまなし。かれ、みとし豊かに榮え、国のうち、にぎひににぎひ、民のけぶり、満ちに満ちて、外つ国の貢物さへ絶ゆることなく、いともめでたき時なるも、もはらわが殿の、御おきての正しきに依れりとて、帝にもいたくその御いさを褒めたまひ、こたびおほきものをすつかさに進め挙げて、やがて召しのぼしたまふ詔あり。あなかしこ、いともめでたく、よろこほしきことながら、かかる御かへりみの、^Bかげに隠れ来て、今さらに別れまつらむこと、たれやし人か嘆かざらむ、いづれの人か悲しまざらむ。かかるに、**何某**は、常に御もとにさぶらひて、朝青きこしめす大御酒の友とまつはしたまひ、霞立つ春のあしたは、香椎の鴻に磯菜摘み、大城の山の桜をかざし、露霜の秋の夕べは、蘆城の野辺の真菰を手折り、かまど山の月を愛でなど、御馬に従ひて遊びありきつつ、かしこまりも置かず、なれまつりぬれば、言はむすべ、せむすべしらにきはまりて、悲しきことの限りになもある。かくて御館より立ち出でたまふ日は、高き短き、をとこをみなを言はず、^Cこころの人々、送りまつりて、おのおの別れがてなる心を述ぶるに、君にも涙をのこひたまひ、水城のほとりに御馬をとどめて、^Cますらをと思へる我や、**何某**は、人々の尻へにもこよひつつ、八束髭^{やぶひげ}の、しづくもしとどに泣きあへるを、ことさらに召し出でてのたまはすらく、けふ人々のよみ出でつる歌どもは、心もしぬにおほゆるを、ただにやはうち置くべき、とく一卷にかきつめて、今しばし言葉を加へてたてまつれ。奈良なる人に示さむにはまづ此をこそはと、のたまへり。天離る鄙^{ひな}に五とせ住まへる身は、言ふことばさへひがみたらむと、²かつはやさしみ思ふものから、かくとりわき仰せたまはることを、返さひ申さむもかしこくて、^Dつたなき筆を執りて、いささかそのよし書きつくるも、わが殿の御霊^{みたま}たまひて程もなく同じ都に召上げたまはむことを、おふなおふな、ねぎまつる故にこそ。

(中島広足『樞園文集』より)

注

大まつりごと —— 天皇の政治。ここは天皇に代わって筑紫(九州地方)を治めること。
おほきものまをすつかさ —— 大納言。香椎・大城の山・蘆城・かまど山 —— いずれも現在の福岡県の地名。
なも —— 「なむ」の古形。水城 —— 大宰府防衛のために設けられた土塁堤防。
もこよひつつ —— 這はいつくばりながら。八束髭 —— 長い髭。
心もしぬに —— 心もしつとりとなびくように。おふなおふな —— ひたすら。

問一 傍線1・2を口語訳せよ。

- 1 こころの人々、送りまつりて
- 2 やさしみ思ふものから

問二 傍線A「をちこちの国のかみたち、皆その御まうけに従ひて」の意味する内容として最も適切なものを、次の中から一つ選び出して、その番号をマークせよ。

- ① 国中の神社の神主たちは、皆御そなえのごちそうを用意して
- ② そこらじゅうの国の長官たちは、皆その御取り決めに従って
- ③ 昔も今も国土の守護神たちは、皆その催しの準備に忙しくて
- ④ 今も将来も即位した天皇たちは、皆皇太子の意向を尊重して

問三 傍線B「今さらに別れまつらむこと、たれやし人か嘆かざらむ、いづれの人か悲しまざらむ」とはどういうことか。最も適切なものを、次の中から一つ選び出して、その番号をマークせよ。

① これまでに処理すべき問題をいまだに残したまま、途中で離任せざるを得ない殿の運命に、あらためて人々は嘆き悲しんでいるということ。

② これまで殿の善政の恩恵をこうむってきたものの、今回の殿の離任は任期をくりあげての昇進ゆえ、嘆く者も悲しむ者もないということ。

③ これまでさまざまな折に心に懸けて守って下さった殿の御恩が思い起こされ、今あらためて人々は殿の離任を嘆き悲しんでいるということ。

④ これまでの殿の治政に対しては陰に隠れて悪口を言う者が多く、このような状況で離任することに、嘆く者も悲しむ者もないということ。

問四 傍線C「ますらをと思へる我や」は、「ますらをと思へる我や水茎の水城の上に涙拭はむ」という万葉集の歌の冒頭部分である。この歌全体を口語訳せよ。なお、枕詞「水茎の」は訳さなくてよい。

問五 傍線D「いささかそのよし書きつくる」とはどういうことか。その内容として最も適切なものを、次の中から一つ選び出して、その番号をマークせよ。

① 田舎暮らしが長く、言葉も訛り、歌集を編む職責を果せないとき書き留めたこと。

② 都の人の心にも深く記憶されるようにと、今日人々が詠んだ歌を書き集めたこと。

③ 人々が出立の日に詠んだ惜別の歌に、少しばかり歌が作られた事情を書き加えたこと。

④ 人々が送別の宴で詠んだ歌は、皆しみじみとした情感をたたえているとき書き添えたこと。

問六 波線 a、c における敬意の対象を示した組み合わせとして最も適切なものを、次の中から一つ選び出して、その番号をマークせよ。

- ① a わが殿 b わが殿 c 何某
② a 官の人 b 帝 c 大御酒の友
③ a 官の人 b わが殿 c 帝
④ a わが殿 b 帝 c わが殿

問七 文中二箇所に出くる

何某

は、本文中の表現から、著名な万葉歌人に擬せられていることが分かる。この歌人

は、「瓜食^はめば子ども思ほゆ 粟食^はめばまして惣^{しよ}はゆ いくより来たりしものそ まなかひにもとなかりて安眠^{やすみ}し寝^なさぬ」をはじめとして、当時の子どもや民衆の貧困を素材として取り上げた歌を数多く残したことで知られる。その人物名を次の中から一つ選び出して、その番号をマークせよ。

- ① 柿本人麻呂 ② 山部赤人 ③ 山上憶良 ④ 大伴家持

次の文章を読んで、後の問に答えよ。(返り点・送り仮名を省いた箇所がある)

太公欲^ス引^下安部川^ヲ入^レ城中^ニ以^テ注^中園池^上下^シ吏議^ス之^ヲ吏經^コ理^シ水道^ヲ

表^{スル}以^ニ小榜^ヲ偶^々太公還^リ自^ニ放鷹^ヲ見^テ其道^ノ当^ニ一^ニ小寺^ニ不^レ悦^バ從^レ臣

或^{ある}獻^レ説^ヲ曰^{ハク}「宜^ニ賜^フ地^ヲ於^テ他^ノ処^ニ以^テ移^ス其^ノ寺^ヲ而^テ後^ニ起^ス役^ヲ」太公曰^{ハク}

「否^{いな}否^{いな}。仮^も使^シ此^ノ役^ヲ為^レ国^ノ為^レ民^ノ而^テ相謀^{ラバ}雖^ニ大^ニ寺^ノ巨刹^{ナリト}亦^タ不^レ得^レ不^ル」

移^サ之^ヲ今日^ノ之^ノ舉^ハ特^ニ老夫^ガ一時^ノ娛樂^ノ之^ノ計^ニ耳^ヲ而^{シテ}毀^ツ古^ノ來^ノ所^ヲ置^{ケル}

仏寺^ヲ吾^ガ所^ノ不^レ欲^セ也^ト遂^ニ命^ジ止^ム其^ノ役^ヲ

注

太公 —— 徳川家康。 安部川 —— 安倍川。 現在の静岡市西部を流れる川。 吏 —— 役人。
放鷹 —— 鷹狩り。 小榜 —— 小さな立札。 大寺巨刹 —— 大寺院。

問一 傍線 a「雖」・b「耳」の読みとして、それぞれ適切なものを、次の中から一つずつ選び出して、その番号をマークせよ。

- ① すれども
- ② あり
- ③ のみ
- ④ するに
- ⑤ いへども
- ⑥ べし
- ⑦ いふに

問二 傍線 A を書き下し文にすると「宜しく地を他処に賜ひ、以て其の寺を移し、而る後、役を起こすべし。」となる。これをふまえて、「宜賜」と「起役」の部分に返り点を付けよ。(送り仮名は不要である)

問三 傍線 B「不得不移之」を「之」の内容がわかるように口語訳せよ。

問四 傍線 C「老夫」と同じ人物を、次の中から選び出して、その番号をマークせよ。

- ① 太公
- ② 吏
- ③ 従臣
- ④ 民

問五 この文章の趣旨として最も適切なものを、次の中から一つ選び出して、その番号をマークせよ。

- ① 権力者は、時には強引な政治力を行使する必要がある。
- ② 権力者であっても、公私をわきまえて、政治を行うべきだ。
- ③ 権力者は、美的なものに対する深い理解が求められる。
- ④ 権力者であっても、宗教的なことがらに関しては、慎重であるべきだ。